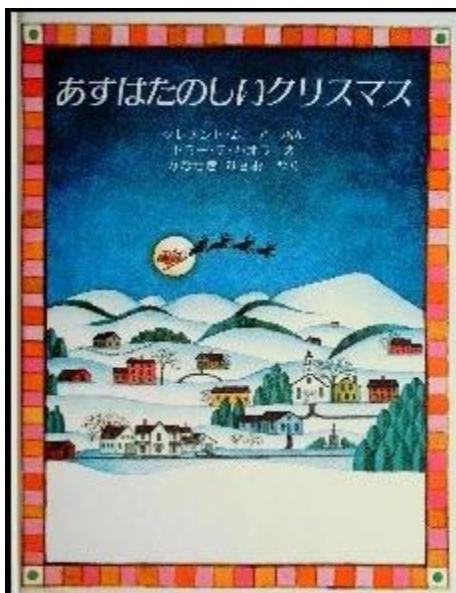


～読んでみない？こんな本～

あすはたのしいクリスマス

クレメント・ムーア文 トミー・デ・パオラ絵 ほるぷ出版



クリスマスの前の晩のことを語ったこの詩は、1823 年にアメリカの新聞で発表されてから 100 年以上経っていますが、愉快なサンタクロースの様子を色あせることなく私達に伝えてくれます。いろいろな画家がこの詩に絵をつけてそれぞれの本を出版していますが、“デ・パオラ絵”のこの本は長い間品切れの状態でした。ところが昨年復刊され、図書館にも置くことができるようになつたので、文も楽しく絵もあたたかいすてきなこの絵本を、ぜひ楽しんでほしいと思い、紹介します。

クリスマスの前の晩、みんなが眠りにつく頃、家に訪れたのは毛皮のコートに身を包んだ太った小さなおじいさん。小さなトナカイに小さなそりを引かせ、元気に声かけながらやってきた、そうサンタクロースです。夜中の物音に気づいた父さんはサンタクロースの様子をそっとのぞきます。煙突から落ちてきたサンタクロースは、すすを払うとさっさと荷物を開け、愉快な様子でおもちゃを靴下へ入れていくのでした…。

この本の父さんのように、こんなサンタクロースに会えたら、私達も愉快な気持ちになれるような気がします。サンタクロースはプレゼントを運ぶだけでなく、幸せな気持ちも一緒に運んできてくれるのかもしれませんね。